

Libro de Alexandre (XII)

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem that consists of 10,700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many diverse episodes such as those of the Trojan war which took place about 1200 years B.C. according to historians, and those of the Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century A.D. So, in this work by an unknown author, perhaps a cleric, a mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), the style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time traslation is made from the strophe 2147 to 2324.

アレクサンダーの書 XII

太田 強 正 訳

アレクサンダーの書は 13 世紀の最初の約 30 年の間に書かれたと推測される 10700 行からなる大叙事詩である。

これは 33 歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前 4 世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約 1200 年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後 13 世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de Châtillon の Alexandreis を底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア (mester de clerecía) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (juglares) によるメステル・デ・フグラリーア (mester de juglaría) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (cuaderna vía) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

今回は第 2147 連から第 2324 連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

2147 道のりは長く、多くの日数がかかりました

乾いた危険な道で、ひどい目に遭いました

怒り狂ったへびや害獣などから

それらから多くの手酷い攻撃を受けました

2148 アレクサンダーは早く終えようと進軍しました

人が通れなかった陸地を通して

そんなに人が歩けない陸地を奥まで

コップ一杯のきれいな水を見つけられそうなほど

2149 進軍中暑さが彼らを悩ませました

地面からのホコリと空からの熱

臣下であれ、君主であれ

川の水を非常に喜んで飲んだでしょう

2150 彼らは非常に苦しんでいました、しかし動物たちはさらに

己が苦難が彼らを苦しめていました、しかし動物たちののはさらに

戦苦にしっかり耐えた者でしょう

このような艱難を嘆かない者は

- 2151 男たちは苦難を抱えて剣を舐めていました
他の者たちは出る尿を嫌々飲んでいました
惨めな者たちは舌を出して歩いていました
こんなに苦しんでいる人々は世界にいませんでした
- 2152 ソイルスという者がが石の下に小さな水たまりを見つけ
兜をきれいな水でほとんど一杯にしました
それをすべて王に差し出し、自分には少しも残りませんでした
その若者は王に良く仕えたのでした
- 2153 王はそれを見ると笑い出し
水を地面に撒き、すすろうとしませんでした
王は言いました：《私は私の臣下たちと共に死にたい
彼らが死んだら、私は生きていたくない》
- 2154 このことに兵士たちは大いに喜びました
十分水を飲むと同じくらい元気づけられました
皆が言いました：《このような王を神がお護りくださいますよう
に
臣下に対してこのように誠実であることができる王を》
- 2155 そうしているうちに彼らは多くのたちの悪い蛇を見つけました
あるものは毒針を、あるものは毒菌をもっていました
あるものは飛びながら、あるものは這って進み
王の多くの兵士に害を与えました

- 2156 彼らは運良く一人の男を見つけました
男は彼らに近づきたい場所にある泉を示しました
しかし誰か近づけたとしても
それを守るしっかりした見張りがついていました
- 2157 多くの獐猛な蛇がその泉を守っていました
そこはあまり安全な入口ではなかったと言われています
昼間には近づきがたかったでしょう
—誰が飲もとも、私は飲みたくありません—
- 2158 人々が泉の話を聞くと
大きな期待を抱くあまり死にそうになりました
飲みたいと思い泉に行きました
王はどうしても彼らを止めることができませんでした
- 2159 大きな苦悩が彼らに恐怖を忘れさせました
人々は泉に行くために皆移動しました
王が彼らが危険に晒されるかもしれないと思ったとき
神が王に良い考えを示しました
- 2160 王は物知りで非常に学問があったので
—彼は才知溢れる、すばらしい師でした—
良き哲学者であり、完璧な師でもあり
すべての学問に通じていました

- 2161 王は蛇の習性を知っていました
皆裸の男をからは逃げだすと
大きな焚き火よりは怖がらなかったでしょう
一書にはこの事が書いてあります：本当の事です—
- 2162 王が皆に服を脱ぐよう命じると
生まれたままの丸裸になりました
蛇はひどく衝撃を受けて、シューシュー言いました
追い立てられたと思い、大きな音をたてたのです
- 2163 王の助言は神から送られたものでした
民は救われ、渇きから解放され
始めた行路を進んで行きました
王は最も分別のある人と思われました
- 2164 彼らは厄介な川にやって来ました
—私たちはその名前を読んでいないので、あなたたちに言うこと
はできません—
それは広くて深いので、彼らは渡ることができませんでした
皆死にたいと思いましたが、死は訪れようとしませんでした
- 2165 至る所、河岸の至る所にありました
大きな葦の生えている巨大で陰しい山々が
そこでは人々は色々な種類の多くの動物を育てていました
それらと多くの激しい戦いがありました

- 2166 何匹かの大きなネズミが彼らに飛びかかって来ました
呪われて、汚い、毒を持ったなネズミでした
狐ぐらいの大きさで、歯を剥いていました
肉を噛まれた者たちはすぐに死にました
- 2167 馬が恐怖を感じるようになりました
四本の足でネズミたちを蹴り始め
無理やり散らして逃げさせました
あえて馬を攻撃するものは一匹もいませんでした
- 2168 すると葦の茂みから豚が現れました
それらは腕尺よりも大きな牙を持っていて
右に左に猛烈な攻撃を懸けてきて
三十人以上の主だった王子たちに被害をあたえました
- 2169 しかし彼らは結局それらを打ちのめし
退散させると、隠れてしまいました
もし邪悪な罪のお陰でそれらが戦い続けようとしたなら
ギリシャ人たちは困ったことでしょう
- 2170 豚が去ると他の手に負えない奴が現れました
ウサギみたいで地面の下に巣穴を持っていて
各々が三対の手を持っていました
—良き書き手たちはこのようなものを怪獣と呼んでいます—

- 2171 昼過ぎ、暑くなってきた時
大きなハエとスズメバチが唸をあげてやって来ました
それらはすざましく動物を刺し
人まで襲おうとしていました
- 2172 動物たちは非常に怒りました
酷い傷が彼らを怒らせたのです
それは鋭い針で刺した傷口で
タールに浸けたキリのようなでした
- 2173 ハチが一度刺した者は
毒を飲んでもそれほど苦しまなかったでしょう
彼らは心の奥に苦々しさを感じていて
言っていました：《こんな刺し傷は呪われればいいんだ》
- 2174 こういうものは攻撃できるものではなかったので
逃げることも反撃することもできませんでした
王が良い考えを出し
それが結局神の助力で彼らを助けることになったのです
- 2175 王は皆に多くの葦を刈り取り
持てるだけ大きな束を作るよう命じました
刈り取るとそれに火をつけるよう命じました
そのことでハエを退治できたのです

- 2176 夕方ハエが追い散らされると
人々は助かったと思いました
するとコウモリの大群がやって来ました
ひどく有害な羽のない小さな鳥です
- 2177 ヒメノガンくらいの大きさはあったでしょう
鷹のように良く舞い上がったり降下したりしました
針を持っていたので大きな傷を負わせました
人々の心に怒りが沸き起こりました
- 2178 人々が危険を見た時、再び葦の束に頼りました
なぜなら前に助かったのを知っていたからです
コウモリはこれを見ると大人しくなりました
その夜葦の束は燃え続けていました
- 2179 他の多くの動物たちについて私たちはあなた方にお話できるで
しょう
それはアレクサンダーがインドで見つけたものです
しかし今は置いておきたいと思います
私たちはボロを追いかけて見つけたいのです
- 2180 しかし私はある動物についてはあなた方に記憶に留めてほしいと
思います
それは像よりも大きく、ずっともっと勇敢です²³¹⁾
血統も種も悪く
昼の暑い時に川に水を飲みに来ていました

- 2181 全身馬のようで
熟した桑の実のような黒い頭をしていました
額の真ん中、一番出ているところに
三本の角がありとても恐ろしいものでした
- 2182 ギリシャ人たちはその動物をととても怖がりました
しかし良き皇帝は彼らを大いに励ましました
《友たちよ、元気を出せ：お前たちは良い主人を持っている
この邪悪な化け物は全然力がないだろう》
- 2183 最初の衝突ではギリシャ人たちは身を守ることができました
しかし二回目ではその動物は二十六人を殺し
ざっと数えても五十人を負傷させました
しかし王は結局その動物を殺しました
- 2184 生まれながらの戦士であるアレクサンダー王は
鉄や火打ち石よりも硬く
すべての事、快楽、苦労を同等に評価していました
名声以外のものは全然重要ではなかったからです
- 2185 王はすべての苦痛から決して休まることはできなかったでしょう
ポロを見つけるまでは
バクトリアで彼を遠くに見るや
ギリシャ人たちは喜び、ポロは気分が重くなりました

- 2186 ポロはギリシャ人たちが怒ってやって来るのを見て
言いました：《この悪魔たちは死ぬのを恐れてない
蛇も人も彼らをやっつけることはできない
もし彼らがわれわれを助けるようなことになれば、我々は男とは
言えない
- 2187 ポロは直ちに準備が整った兵を動かし
用意のできた軍の前に立ちました
両軍は決然と対峙しました
お互いに停戦を拒絶したので
- 2188 二人の王はしっかりとした強力な軍を持っていました
しっかりとした前衛と良き側面部隊
決然と前進する用意がある兵士たち
誰でも彼らが真剣なのが分かったでしょう
- 2189 彼らには仲介者が一人もいませんでした
両方とも自分の手で解決したいと思っていました
他のことは軽い遊びのように思えました
太陽の下で鞠遊びをする子供たちのように
- 2190 アレクサンダー王はすでに彼らを攻撃しようと思っていました
しかしポロは彼にある考えを伝えました
多くの人が死ぬのは大きな損失ではないかと
両者がそのことを話し合うのが良いのではないかと

- 2191 蛇を飼いなす良き皇帝ポロは
偉大でしたが、小さい体でした
それでアレクサンダーに立ち向かおうと考えていたのです
しかし事は考えていたようには運びませんでした
- 2192 この知らせが 生来の戦士であるアレクサンダーを喜ばせました
とても喜んで戦いを承諾し
長い遅れも立会い人も望まず
すぐに伝令をポロに送り返すよう命じました
- 2193 そして直ちに言わせました、用意ができれば
来るつもりで出発するように
というのは自分は戻ったり、脱穀場を離れたりしないだろうから
種の皮をすっかりむくまでは²³²⁾
- 2194 ポロは伝令を見ると、小道に出て
《私に言ってくれ—と言いました—私の忠実な使者タクシェリヨ
よ
あの私の相手からどんな知らせを持ってきたのか
彼は自分をととても良い騎士だと思っている》
- 2195 伝令は正確な言葉を伝えました
《ご主人様、私は返事を持って来ました、本当のことです：
アレクサンダー王は戦場であなたを待っています
ご主人様、もし彼があなたを破れば、私たちはとても苦しい立場
になります》

- 2196 ポロは体が大きく²³³⁾、とても勇敢でした
一人の男にこれ以上の騎士精神が宿ることはありませんでした
彼はアレクサンダーを怯えさせようと思いました
それでそのような大きいことを言ったのです
- 2197 遅れるとまずいだろうと思い
首に槍をくくりつけ、砂原に出ました
両者同時に到着し
アレクサンダーもポロも喜びました
- 2198 人々はこのような特別なもの
このような重要な戦い、このような激し争いを見るため
各々の側から目を凝らしていました
なぜなら大きな危険を伴い、重大なことだったからです
- 2199 各々自分の側から祈っていました
跪いて、供物を約束し
拳を握りしめ、胸を締め付けていました
髪の毛の間から涙が滴っていました
- 2200 すでに両王は二人だけで相見えていて
両者は軽快な馬を享受していて
お互いを狡猾な人間だと踏んでいました
両者とも自分を良き騎士だと誇りにしていましたから

- 2201 ポロは振り返ってアレクサンダーを攻撃にでると
アレクサンダーはこれに気づき、迎え撃ちました
出会い頭お互い激しく攻撃したので
サムソン²³⁴⁾を思い出させたことでしょう
- 2202 相対して各々攻撃を受けて
武具をつけていても、攻撃に苦しみ
心の中ではすでに後悔していました
このような争いに巻き込まれてしまったので
- 2203 両者ともお互いにひどく混乱していて
馬も彼らも厳しい試練を受けていました
もし盾が話すことができたなら
確かなところを語ることはできたでしょう
- 2204 人々は皆打撃を受け苦しみ
両陣営とも大声をあげ
それは天まで届き、谷々を埋めつくして
山々に響き渡り、動物たちはおびえていました
- 2205 大声に欺されポロは
自軍の方を見るために振り返りました
アレクサンダーはギリシャ人たちには全然かまわず
ポロの背中を刺し、ポロは倒れました

- 2206 倒された時、ポロは叫び始めました
 《御慈悲を、アレクサンダー王よ、私を殺そうとしないでくれ
 私はここであなたの臣下になる
 私はあなたの命令を果たし、何事においても背きたくない
- 2207 あなたが常々持っている慈悲を
 —その故にあなたは非常に価値があるのです—それをなくさない
 てください
 私をあなたの天幕に連れて行って、私を治療するよう命じてくだ
 さい
 神の御意志で私はまだそうしてもらうに値すると思います
- 2208 アレクサンダーは悪意を変え
 怨恨を忘れました、慈悲が彼を動かしたのです
 いとも安々と馬から降り
 親しげに言葉をかけ始めました
- 2209 《ポロよ、お前は悪い判断をして、大変な気違い沙汰を演じた
 私に対してあのような危険に身をさらすとは
 おまえは聖書の言葉をよく思い出すべきだったろう
 わずかなパン種が大きな塊を生むと²³⁵⁾
- 2210 お前は私を知り、恐るべきであった
 私に挑む恥ずかしさを持つべきであった
 そのような助言をお前にした者は償いをしようとしなかった
 なぜならアレクサンダーはそんなに容易く従えることはできない

のだから

- 2211 ポロは負傷していましたが、ちゃんと答えました
《王様—と彼は言いました—、私が欺されていたことはよく分か
っています
あなたが来るまでは、思っていました
この世で私に匹敵する者は見つからないだろうと
- 2212 しかし私はこの考えを変えました
私が非常に強かったとしても、もっと強い人に出会いました
ポロを信じる者は確信できなくなるでしょう
倒れはしまいか、護ってもらえないのではないかと
- 2213 アレクサンダーよ、あなたにはこの事を述べたい
今あなたは鐘楼の頂にいます
落ちることはない信じないでください
運命と風は止めておくことが難しいのですから
- 2214 望む人は、このことを書くことができます
ダリウスとポロの例を出して
彼らは大きな栄光から一転苦悩することになりました
浮き沈みは世の常です
- 2215 アレクサンダーは非常に驚かされました
こんなにひどい目にあった男がこんなに落ち着いているとは
アレクサンダーは思いました、この男が喜んで満足している時には

完璧な頭と勇気をもった男だろうと

2216 良き王はこの男をすぐ手当させ

以前よりも良い王国を彼に与えました

彼らはなるべくして友達になりました

信じられない他の話が伝えられています

2217 アレクサンダー王はすべてのことを完遂しました

苦労しましたがインドを征服し

アジアの王国で彼には何も残っていませんでした

反乱を起こした一つの町を除いては

2218 スドラカ²³⁶⁾ はしっかりした人口の多い町でした

平地にありましたが、良く城壁で囲まれていました

その町は過剰な自信があって、神聖な誓い立てました

ギリシャ人達には決して支配されないと

2219 アレクサンダーは大変な愚弄たと思いました

一つの町がポロやダリウスより上だと思うことが

彼は言いました：《この私の剣にかけて私は約束し誓う

この町に路地も一つの地区も残さないと》

- 2220 直ちに彼は多くの石投げ機で町を攻めに行き
出口を囲み、入口を断ち切りました
しかし塔が堅固で良く建てられていたので
攻撃に耐え、落ちませんでした
- 2221 門は頑丈で、破壊することはできませんでした
壁は固く、穴を開けることはできませんでした
ギリシャ人達は町を占領することも放棄することもできないでい
ました
このような状態が丸 15 日続きました
- 2222 アレクサンダー王はこの事態に言いました：《こんな事があって
はならない》
王は壁に梯子を掛けるよう命じました
自ら先頭に立とうとし
一番高い胸壁に登りました
- 2223 良き王はすでに一番高い壁に登っていました
多くの身軽な者達が後に続いて登りました
あまりの重さに梯子が崩れ
下に皆落ちて、多くの兜が砕けました
- 2224 王は城の天辺に一人で立ち
狭い出入口の二つの胸壁の間にいました
盾には多くの矢が刺さっていましたが
鎧と兜は裏切りませんでした

- 2225 臣下達は君主が危険だと思いましたが
どうしても救けることができませんでした
梯子はなかったし、手に入れることもできないし
どうしても組み立てることもできませんでした
- 2226 皆言いました：《ご主人様、私たちはあなたをお救けできません
しかしあなたをこよなく愛する我々はあなたのために
ご加護を願います
我々が受け止めますから、飛び降りてください
ご主人様、もしあなたがいなくなれば、我々は皆途方に暮れます
- 2227 無価値な小さな城のために
あなたがいなくなれば良くないことです、そしてあなたというす
べての人々がいなくなれば》
アレクサンダーは答えました：《このことについてお前たちに言
っておく
そのような助言を私にする者は、私の忠実な友ではない
- 2228 そのような事をするのは良い王ふさわしくありません
中に入ることができて、外に逃れるなどということを
神がどうお望みになろうと、私が生きようが死のうが
私はこの好戦的な人々に戦いを挑みたいのだから》
- 2229 王は剣を手に町に飛び降りました
無事だったのは全くの驚きでした
しかし戦闘において抜け目なく、身軽だったので

ギリシャの王はわずかの時間で回復しました

- 2230 スドラカの人々が気付いたときには
アレクサンダー王はすでに立ち上がっていました
皆一斉に彼を攻撃しました
—石がそれ以上の速さで標的をも打つことはなかったでしょう—
- 2231 良き王はよく耐えていて
剣を時々振り回していました
彼が手中にした者には苦痛を与えていました
その苦痛でその者をあの世に送っていました
- 2232 神と幸運が彼を助けようとしてしました
王は自分の近くに古い榆の木があるのを見ました
十人の男たちもその幹を抱えることはできなかったでしょう
それに王は背中をもたせかけようとしてしました
- 2233 背後を恐れる必要がなかったので
前からくる者たちからよりよく身を守ることができました
しかし敵は非常な勢いで王に襲いかかってきました
王に百本の手があったとしても、大変だったでしょう
- 2234 王は自分の前に非常に多くの死体を転がしてありました
一人でしたが王はそれらを非常に激しく叱責したので
それらは罨から取り外された羊のようでした
敵は彼の前にあえて立つことすらしませんでした

- 2235 王はすでに襲撃にかなりまいっていて
力の四分の三を失っていました
助太刀の叫びはどこからも聞こえてきませんでした
運命は王を厳しい状況に追い込んでいました
- 2236 一本の矢が飛んで来て、その矢は呪われんことを、
王が気づくと脇腹に深く突き刺さっていました
もう少しでその矢は大変な痛手を与えるところでした
ピネハスがミディアン人の女に与えたような²³⁷⁾
- 2237 傷が深かったので、多量に出血して
馬でも完全に血がなくなっていたでしょう
運命が別のことを望んだのでなければ
そうでなければ生きていられなかったでしょう
- 2238 臣下のうちの四人―槍兵のティメウス、
二番目にベウコステス、三番目にレオナトゥス、
四番目に殺人騎士アストリオン―
これらの者は幸運にも最初に王を助け出しました
- 2239 彼らは着くや、ぐずぐずしませんでした
それを望む者のように、戦おうとしました
敵を王から少し後退させると
王は少し息を抜く時間ができました

- 2240 彼らは四人だったのですが、もし七人だったたら
王はさらに味方を必要としなかったでしょう
しかし古い格言は常に正しいものです
百匹の狼はやすやすと二匹の子羊を食べてしまうと
- 2241 四人は力の限りしっかりと戦いました
王を守るためにすべての力を注いだのです
しかしいかに多くあなた方に言おうと、彼らは十分に戦えません
でした
結局命を落とさないほどに
- 2242 君主に対する債務は認められた法です
世の中に同じくらい大きな強制もさらに大きな強制ありません
それ故ギリシャ人たちは違反を恐れ
死のうとしました、恐怖を忘れて
- 2243 四人の王子たちが敵に激しい攻撃を仕掛けているあいだ
その間他の者たちは壁を破壊しました
通路を開けると大急ぎで入り
捕えた敵を許そうとしませんでした
- 2244 事を長引かせていい事はありません
王は思わぬときに助け出されました
ストラカの者たちは負傷して許しを請い願いましたが
ギリシャ人たちは女も男も生かしておきませんでした

2245 事が片付いてすべてが終わると

王が見つからず、彼について何も知るできませんでした

ギリシャ人臣下はひどく心配していました

自分たちの戦いはすべておじゃんだと思っていたのです

2246 しかし彼らは熱心に探したので

ついに彼を見つけました

王には彼らがはっきり見えましたが、王は彼らを呼ぶことができませんでした

なぜなら死にかけていたからです

2247 彼らは王を腕に抱いて北風の通る場所に連れて行きました

夏には北風は非常に休まるからです

王は話せませんでしたが、彼らに手振りで示しました

心配しないように、これ以上に元気だったことはなかったのだからと

2248 彼らがアレクサンダーのよろいを調べていると

多くの血の塊を見つけました

たちまち皆の心が碎け

兵士たちの間に急に恐怖心が入りました

2249 ついに彼らは王の傷を見つけ

矢が見えないところに刺さっているのに気付きました

彼らは途方もない褒美を約束しました

彼らに王を治す術を与えることができる者に

- 2250 医師のクリストボルスよく知られたていました
彼は言いました：《わたしがそれを教えよう、王は十五日で回復するだろう
しかし見るところ非常に弱っているので心配だ
不運で失敗するのが怖い
- 2251 王は言葉と全感覚を取り戻しました
美しい目で左右を見回しまし
クリストボルスが困っているのが分かりました
王は彼に言いました、臆病な田舎者のようだ
- 2252 王は彼に医術を施すのを恐れてはならない
そのおかげで自分は定められた日の前には死なないだろうと
《ご主様—とクリストボルスは言いました—、喜んでそう致しましょう
しかしもしよろしかったら、ひとつ望みがあります
- 2253 矢は厄介な所に深く刺さっています
傷口は狭く、それを取り去ることはできないでしょう
少し肉を切らなければなりません
ウミと矢を抜くことができるように
- 2254 王様、体を縛った方が良いでしょう
私が切るときに、あなたが動けないように
なぜなら動くとき失敗しやすいですから
少しの失敗も治療の妨げになるでしょう》

- 2255 王は言いました：《それは不適切に私には思える
王が縛られて身動きできない状態でいるなんて
私のすべての労苦が不名誉なものになってしまうだろう
もし私が力を一度でも失えば
- 2256 お前が何をしようと、私は十分耐えられると思う
お前が私を切ろうが焼こうが、私はもがいたりしないだろう
クリストボルスよ、何を恐れているのだ、私は簡単に治るのだから
お前は私から十分な褒美を受け取ることになるだろう
- 2257 医師は王に保障されて喜び
よく鍛え上げた鉄で作ったナイフを探して
あたりを切り、傷口を開き
深く刺さっていた矢を取り出しました
- 2258 王はよく耐えて、すっかり落ち着きました
眠っていても、これ以上安らかではなかったでしょう
シワのよった鼻からも、変化した面持ちからも
誰も王を苦しんでいる人間だとは思いませんでした
- 2259 大きな心配がありましたが、まだ現実のものとなっていませんでした
王は心ならずも意識を失いました
衰弱し、弱っていきました
呼びかけにも答えられないほどに

- 2260 陣営では泣き声があがりました
皆が王はすでに死んだものと思っていました
悲しみはいかばかりだったか想像できなかったでしょう
経験した者でなければ
- 2261 良き君主に対する悲しみは誰が想像できるでしょう
それを一度味わった者はいつまでも涙するでしょう
それを経験しなかった者は神に願うべきでしょう
この世で決して経験しないですむようにと
- 2262 医師は王を良く看病することができ
苦痛を和らげるように良い膏薬を貼りました
神はそれが効くことを望みました
王は神の恵みで回復することになりました
- 2263 人々が王がすでに回復したのを見ると
涙と苦悩は喜びに変わりました
海で迷い難渋した者は
陸に着いた時には喜びがより大きいでしょう
- 2264 王は数日ですっかり良くなると
それを皆に示しました、ちゃんと信じられるように
すると皆が言いました：《神様、あなたが感謝されますように
あなたはクリストボルスをこんな完璧な医者にしたのだから》

- 2265 人は慣れると習慣になるものです
一歩るき回るにしろ、ずっと横たわっているにしろ—
それを自然と取り、それを保とうとする
私の考えでは、皆がそのように生きています
- 2266 アレクサンダー王は冒険の人生の中で
子供の頃から艱難には慣れていたので
まだ健康体でなく、傷も閉じていませんでしたが
戦っていないので怒っていました
- 2267 王はその苦しみの中に大きな愁いを持っていました
そのことを彼の仲間すべてがとても気に病んでいました
王がまだ苦痛から回復していなかったので
もしかしてまた悪くなるのではないかと思っていました
- 2268 すでに用意ができていました、船舶と水夫
小舟とガレー船、そして豊富な食料が
二人の優れた王であるポロとアビサリオ²³⁸⁾ は
最前線の船に乗船することになっていました
- 2269 良き男アレクサンダーは海を渡ろうと思っていました
その果ては誰も見つけることができませんでした
そして見かけの違う幾つかの民を探そうと思っていました
戦いの新しい方法を編み出すために

- 2270 どこで太陽が生まれ、どこからナイルが流れでるのか
北風に痛めつけられた時には海はどんな力を持つのか知るために
大いなる知恵と並々ならぬ鋭さの持ち主でしたが
アレクサンダーはこのことではとても傲慢に見えました
- 2271 アレクサンダーの臣下たちはとても心配していました
なぜなら彼が全然知らない道をたどっていて
さらに傷がまだすっかり良くなっていなかったからでした
このために全臣下が心配していたのです
- 2272 すべての士官が会議に出席して
王に同様の言葉をかけました
《ご主人様、そのようなことを求めるのは我々には良くないこと
に思えます
それは生身の人間が決して見つけることができなかったものです
から
- 2273 もしあなたが我々の労苦を全く気にかけないとしても
重症を負ったあなた自身のことを思い出してください
もしあなたがまた悪くなったら、もうダメだと思ってください
自身が苦しんだことなどあなたには全然問題ではないのでしょう
- 2274 あなたのすぎましい慾望は、あなたを休ませません
あなたは世界の長で、飽くことを知りません
私たちには知ることも想像することもできません
あなたがなさろうとしていることは何なのですか

2275 しかしこのことすべてに関わらず我々はあなたを恐れていません
あなたが健康でありさえすれば、我々はすべてに打ち勝つでし
う

獣も蛇も我々は恐れないでしょう

あなたが側にいれば我々はすべてに立ち向かいます

2276 しかしあなたはそんな恐ろしいことを企てようとしています

誰も賛同できないようなことを

物事はすべて一つの場所に戻るとは限りません

知恵のある人間は自重すべきです

2277 もしあなたが海の波に飛び込み

あるいは炎の中で窒息し

あるいは大きな岩から飛び降りることをお望みなら

いずれの場合でも苦しむことになるでしょう

2278 あなたは諸王を征服し、蛇を慣らし

山を打ち碎き、獣を滅ぼし

怒れる波と戦おうとしています

それは遊びや試合ではありません

2279 誉ある人間にとって名誉でも名声でもありません

不当な場所で冒険しようとするなんて

有名なエクトルは名声を得なかったでしょう

泥まみれの豚と取っ組み合いに行ったりして²³⁹⁾》

- 2280 クラテルスが序言を終えた時
トロメオは良くできたと認め
すべての人々がその言葉に賛同しました
《ご主人様、お願いですから、良くなるまでじっとしていてくだ
さい
- 2281 クラテルスが言ったことを我々皆があなたに言います
苦しみがあなたに降りかかりませんように、我々はあなたのため
にお慈悲を願います
我々をどこに連れて行くのか、あるいは我々がどの地に行くのか
考えてください
というのは我々はあなたを見ていて、あなたの旗に付いて行くか
らです》
- 2282 王は喜び、それを大いに感謝し
臣下にとっても愛されているのが分かりました
王は雄弁だったので、見事に彼らに答えました
—もし私がそのようにしなかったら、私は不当なことをして大き
な罪を犯すことになるだろう—
- 2283 《親族と友たちよ、お前たちは十分に示してくれている
言葉と行いで私をとっても愛していることを
お前たちはいつもそうしてくれたし、今日もように言ってくれる
そんなことをしなければ、今苦しんでいるように苦しみはしない
だろうに

- 2284 《私は今お前たちの言ったことにとても感謝する
しかしさらにお前たちが常にしてきたことに感謝する
お前たちは子供や妻のことを私のために忘れてくれた
お前たちは私の望むことに決して反対しなかった
- 2285 お前たちは家や財産を残して
十年来私と共に苦勞してくれた
そのことはお前たちに非常な負担になり、お前たちは疲れている
私に仕えるのにお前たちは何も惜しまない
- 2286 お前たちは私に仕えていたのだけれど、ポロを屈服させた時に
そしてダリウスを打ち破り、獣を退治した時に
お前たちはこのことでトロヤの歴史を陰らせ
お前たちは自身に名誉を与え、我々の名声を高めた
- 2287 お前たちが私に関して恐れを抱いているなら、まったく正しいこ
とだ
何らかの悪い出来事でお前たちが私を失うかもしれないという
しかし私はお前たちが持っているのと同じ心を私の中に持ってい
ない
私はお前たちの知らない別の望みを持っているのだ
- 2288 私は私の人生を年数や日数ではなく
戦果や武勇で数える
ホメロスはその物語の中で
アキレスの月数ではなく、その勇気を書いた

- 2289 書は言っている ―私は文書を読んだ―²⁴⁰⁾
神が世界を作られた世界は七つだと
その七つのうち一つもほとんど平定されていない
それ故私は何も獲得していないことになる
- 2290 我々が見たのはすべて以前には知らないことだった
他のことを学ばなかったら我々は無駄に来たことになるだろう
我々が打ち破ったダリウスのことも、ポロのことも
これで我々が大事を為したとは私は思っていない
- 2291 このために神は我々をこの場所に遣わした
埋まっているものをみつけるために
知られていなかっただろうことは我々によって知られることになるだろう
そして我々の勲功は頌歌に歌われることになるだろう
- 2292 名声を得ることを知らない者たちは
これを、無為の内に横たわることを栄光だと思っている
しかし師は言っており、心に留めるよう命じている
手柄の欲しい者は苦勞するべきだと
- 2293 私に一つになってついて来ることを欲するお前たちすべての者と
協力して
私は対蹠地を探し、それらを征服したい
これらは我々が聞いているように地の下にある
しかし私はそう断言しない、ウソだと思うから

- 2294 お前たちがまだ私をおろそかにしようとしても
—それは私が決して聞いたことも見たこともないと思うが—
ここにはいつも私を助けてくれる私の手がある
そしてそれらは非常な困難な時に動かすことができる》
- 2295 王にはまだ話すべきことがもっとたくさんありましたが
皆声をあげて王を黙らせました
《ご主人様—と皆が言いました—、馬に乗ることを考えてくださ
い
我々は皆陸でも海でもあなたについて行きましょう》
- 2296 王はすぐに火を焚き
移動する時の習慣通り、合図の煙を出すことを命じました
すると皆直ちに天幕をたたみ
諸事の準備をし、荷物をまとめにかかりました
- 2297 兵は船に乗り、出発しようとししました
海は穏やかで、これ以上ない状態で
この上ない順風でした
航海して行きましたが、どこに行くのかは知りませんでした
- 2298 兵はまっすぐでしっかりしたマストを準備し
錨を上げ、換気口を開けました
船は順風で非常に軽快に進んでいて
兵は天候のおかげではつらつとしていました

- 2299 彼らは短時間で沖に出て
長い時間さ迷いました
水夫たちはひどく困っていました
なぜなら慣れてない所を航海できなかったからです
- 2300 風は容易に変化するものなので
天候が変わり、海は荒れ
波が上下し始めました
一王は武器で波を鎮めることはできなかったのですー
- 2301 船が沖にさらに進むに従って
さらに危険が立ちはだかって行きました
《ご主人様ーと兵士たちが言いましたーあなたはこんなに捜索に
出て
我々があなたに言ったことを確かめようとしています》
- 2302 これらすべての危険も王を抑え込むことはできませんでした
それらのために後悔したり、引き返そうとはしませんでした
神はそのような男をお創りになることで大仕事をなさいました
怒れる波もそのような男をおびえさせることはできませんでした
- 2303 王は悪しき執拗さで多くの嵐を乗り切りました
それには雲も風も嫉妬心を抱きました
水夫たちは言いました：《インドはどのように彼に耐えたのだろ
う
海とも戦うこの悪魔に》

- 2304 十年間さ迷い歩いたオデュッセウスは
この上ない危険に遭遇し、この上ない試練に会いました
しかし事がなされ、すべてが解決されると
この幸運な王は完璧な人物として登場しました
- 2305 人々は偉業のことをよく語るものです
書に書いてなく、信じがたいものです
本当かどうか私にはどうしたら良いのか分かりません
それを忘れたくはないのですけれど
- 2306 噂では魚が何をしているのか
大きな魚の中で小さな魚がどう生きるのか知るために
王は入り口をぴったり閉じた水晶の箱を作り
二人の臣下と共にその中に入ったと
- 2307 これらの者はすべての最良の臣下のうちでも選ばれた者たちでし
た
それは裏切り者たちが機会を持たないようにするためでした
王にも彼らにも擁護者がいたので
悪い反逆者たちは好き勝手に行動できなかったでしょう
- 2308 その箱は良質の瀝青で閉じられ
頑丈な鎖でしっかり巻かれて結ばれ

しっかりした釘で船に取り付けられました
沈んだりしないで、ぶら下がっているように

- 2309 王は十五日間自分をそのままにしておくように
船がそれをすべてつけたまま航行するように命じました
こうすれば十分に知り、探検し
海の秘密を書に書くことができたでしょう
- 2310 王の入っている箱は投げ入れられました
ある者にはつらく、他の者には楽しいことでした
何人かの者たちは王はそこから出られないだろうと硬く信じていま
した
しかし王が海中で死ぬことはないと決められていました
- 2311 良き王は閉じられた住処の中にいました
偉大な心が狭い住まいの中にあつたのです
王は海全体に魚の住んでいるのを見ました
そこで見つからなかった生き物はこの世にいません
- 2312 この世にどんな生き物もいません
海に似た形がないような
お互い自然によって敵対します
強い者が弱い者に不幸をもたらします
- 2313 その時王はその冒険の中で見ました
どのようにしてある者が他の者を待ち伏せるのかを

それで捕えられ騙されるのだと
そして後に人の世でそのような事が行われるようになったと言
いました

- 2314 非常に多くの魚が王のところに寄ってきました
あたかも武器で制圧されたかのように
魚たちは皆うなだれて箱のところまで来ました
皆王の前ではおもらしをした子供のように震えていました

- 2315 アレクサンダーは右手で誓って言いました
これほどよく人にかしずかれたことはない
王は海の住人に満足して
大きな王国を得たと思いました

- 2316 王はその住人たちの中に他の事実を見ました
大きい者たちが小さい者たちをたべるのを見たのです
小さい者たちは大きい者たちを主人と思っていました
もっとも強い者たちがすべての小さい者たちを虐げていました

- 2317 王は言いました：《傲慢さはどこにでもあるものだ
地上でも海の中でもそれは力だ
鳥も同じでお互いを同等と見ていない
こんなに多くの所にあるこのような悪徳を神が打ち砕いてくださ
いますように

- 2318 それは天使の間で生まれて、多くの者を墮落させた
それは地に広まり、神はそれに大きな力を与えた
節度はその正義を行えない
それは頭を隠した、そして現れようとしな
- 2319 もっとできる者はもっとします、善ではなく悪を
もっと持っている者はもっと欲しがり、さらなる物を得るために
死にます
誰も喜んで認めたくないのでしょう、誰もが自分と同等だと
ひどい罪です、誰も神に忠実ではありません
- 2320 鳥も獣も人間も魚も
皆自分たちの間で群れに分かれています
皆傲慢という悪徳に冒されて
弱い者は強い者に挑まれています》
- 2321 もし王がそのような事をよく考えることができるように
自分自身を正しく裁こうとするならを
言葉を少し慎み
ひどい大言壮語を抑えるようにすべきでしょう
- 2322 王は喜んでもっと（海中に）いたかったでしょう
しかし臣下たちにはつらくなりました
よく瞬時に襲ってくる危険を恐れて
予定よりずっと前に彼を海から出しました

2323 臣下たちは君主と一緒になれて喜びました
 子供も大人も皆彼に会いに来て
 三四回手に接吻して
 言いました：《ご主人さま、今我々は生き返りました》

2324 私は王を船の中で休ませておきたいと思います
 少し彼の傲慢さについて話したいと思います
 私はあなたたちに少しその問題を残しておきたい
 しかしすべては結局一箇所に集まるものでしょう

注

- 231) 河馬の一種か
- 232) 用事がかたづくまでは
- 233) 2191 と矛盾
- 234) 旧約聖書士師記（13-16 章）に登場する怪力の持ち主
- 235) 新約聖書マタイ伝 13、33etc. ここでも時代が大きくずれている
- 236) バンジャブ地方の町で、現在のラビ
- 237) 旧約聖書民数記 25、6-9
- 238) カシミール地方の長
- 239) アレクサンダーをトロヤの英雄ヘクトルに譬えている
- 240) 本とは San Isidoro de Sevilla の Etimologias のことと思われ、これも後世の言及である七つの世界とは地球、月、当時知られていた五つの惑星

参考図書・辞書

- Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014
- Libro de Alexandre Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica Editorial Castalia Madrid 2007
- Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985
- Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009
- Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid

1976

アレクサンドロスの書・アポロニオの書 橋本一郎 大学書林 1991

Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986

Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfópolis 2002

Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian The Hispanic Seminary of
Medieval Studies New York 2001

Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse París 1968